

公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市マンガ・アニメ情報館及び新潟市マンガの家		
管理者名	にいがたアニメ・マンガプロジェクト共同体	指定期間	2018年4月1日 ~ 2023年3月31日
担当課	文化スポーツ部文化政策課		
所在地	新潟市マンガ・アニメ情報館：新潟市中央区八千代2丁目5番7号 万代シテイ・BP2 1階 新潟市マンガの家：新潟市中央区古町通6番町971番地7		
根拠法令			
設置条例	新潟市マンガ・アニメ情報館及びマンガの家条例		
施設概要	<p>【新潟市マンガ・アニメ情報館】</p> <p>建築構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造地上4階建て 専有面積：914.47㎡ 施設：常設展示コーナー、企画展示コーナー、ミニシアター、交流体験スペース・閲覧コーナー</p> <p>【新潟市マンガの家】</p> <p>建築構造：鉄筋コンクリート造陸屋根8階建て 延床面積：349.07㎡ 施設：常設展示コーナー、企画展示コーナー、交流体験スペース・閲覧コーナー</p>		

施設設置目的	
新潟のマンガ文化及びアニメーション文化を次世代に継承し、及び発展させることにより、市民の文化活動の振興に資するとともに、これらの文化を市内外に発信することにより、本市の観光交流の推進及び地域の活性化を図ることを目的とする。	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1 基本理念	<p>(1) マンガ・アニメを本市文化施策の主要な柱に位置づけ、市民の誇りとなるよう、その継承と発展に努める。</p> <p>(2) マンガ・アニメとゆかりの深い本市の特性を活かした取り組みを進め、国内外に発信し、多様な交流を促すことで地域の活性化を実現する。</p>
2 展開の方向性	<p>(1) 本市と強いつながりのあるマンガ・アニメ文化紹介</p> <p>(2) 市内はもとより市外や海外からの来館者、リピーター創出</p> <p>(3) マンガ・アニメの世界観を体感できる体験型の展示構成</p> <p>(4) まちなかのコンテンツと連携し、多様な交流とまちの活性化実現</p> <p>(5) 子どもたちの夢や想像力を育む事業展開</p>
3 実施事業	<p>施設の設置目的を達成するために以下の事業を行う。</p> <p>(1) マンガ・アニメに関する資料等を収集し、保存し、調査し、及び研究すること</p> <p>(2) マンガ・アニメに関する資料等の公開及び閲覧に関すること</p> <p>(3) マンガ・アニメの普及及び啓発に関すること</p> <p>(4) マンガ・アニメに関する交流及び体験活動に関すること</p> <p>(5) マンガ・アニメに関する講演会、講座等を開催すること</p>
4 管理運営方針	<p>(1) 当該業務において善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置目的を踏まえて、新潟市マンガ・アニメ情報館及びマンガの家の一体的な管理によりその効果を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、入館者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 入館者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

2021年度

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	施設入館者数	情報館・マンガの家合わせて 年140,000人以上	・情報館 107,852人 ・マンガの家 21,675人 両館合計 129,527人	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、目標未達成。
	企画展の実施	・情報館 年4回以上 ・マンガの家 年2回以上	・情報館 9回 ・マンガの家 2回	A	情報館では目標の倍以上の回数企画展を実施しており評価できる。
	事業の実施	・マンガの家における制作実演参加者数 年1,000人以上 ・マンガ出張講座実施回数 年6回以上	・参加者数 2,571人 ・実施回数 4回	B	製作実演は昨年度の約2倍の参加があり、高く評価できる。 なお、出張講座は新型コロナウイルス感染症の影響により、目標未達成。
	施設間の連携	情報館及びマンガの家の共通イベント等連携事業 年5回以上	連携事業 計4回	B	
	広報・PRの充実	・ホームページアクセス数 年300,000件以上 ・各種メディアへの掲出(取材含む) 年50回以上	・PV合計 368,440件 ・メディア掲出 118回	A	メディア掲出が目標回数を大きく上回っており評価できる。
	入館者の満足度	入館者アンケートで「満足」が80%以上	各項目の「満足」+「まあまあ満足」の合計 ・情報館 85.5% ・マンガの家 86.5%	A	新型コロナウイルスの感染対策を行いながらも、両館ともに80%を超える満足度を果たしたことは高く評価できる。
	要望・苦情に対する回答	要望・苦情には原則5営業日以内に回答	即日対応を基本とし遂行。特に大きな問題は発生していない。	B	
自主事業の実施	施設の設置目的に合致した自主事業の実施	当会場でしか購入できないオリジナルグッズを制作し、販売した。 (※プリティーシリーズ10周年展大型タペストリー、アクリルスタンド、缶バッジを製作して販売)	B		
財 務	運営経費の削減	管理運営経費を指定管理料年度協定額以下	指定管理料62,897,870円に対し、支出額62,897,870円	B	
	適正な財政運営、財務管理	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行、収支状況の記録	収支計画に基づき適正に執行。収支状況も月次、企画展ごとに記録し管理した。	B	
業 務	事業の適正な実施	・業務仕様書等に定める事業の実施及び遵守 ・業務マニュアルの作成	業務仕様書や業務マニュアルに基づき適正に実施。	B	
	市民協働の推進、地域・関係団体等との連携	地域、関係団体等との連絡調整会議、連携イベント開催 年1回以上	BP会議に出席。新潟観光コンベンションとの連携実績あり。	B	
	社会・地域への貢献	再委託する場合の市内事業者への再委託及び物品等の市内事業者(店舗)からの調達率 90%以上	市内調達率93%	B	
	安心・安全の確保	・緊急連絡網、危機管理マニュアルの作成 ・防災訓練 年2回以上実施	緊急連絡網・危機管理マニュアルを現状に合わせ加筆修正。スタッフが即座に確認できる場所に配置。防災訓練は6月と11月に実施。	B	
	コンプライアンス	コンプライアンス研修の実施 1人あたり年1回以上	企画展開始前に毎回実施。	B	
	業務仕様書の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	適切に遵守している。	B	

人 材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	法令順守を尽し問題なし。	B
	配置人員のミッションの理解度とスキルの習得度	職員業務研修の実施 1人あたり年2回以上	企画展開始前を目途に2回実施。	B
	市内雇用への貢献	市内居住者の雇用率 80%以上	市内居住者雇用率86.7%	B

【評価基準】

A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている

B: 要求水準(評価指標)が達成されている

C: 要求水準(評価指標)が達成されていない

※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください。)

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

令和3年度もまだまだ衰えない新型コロナウイルス感染への不安と向き合いながらの運営となった。昨年度より引き続き「安全性と集客のバランス」をテーマとし、感染予防とスタッフの健康維持管理を運営の基本としてきた。集客に関しては大きく期待できる夏休みや冬休み期間でも県外客、観光客の姿は少なく、全国的な「出控え」の影響は年間を通して大きかった。国の水際対策のため海外客が全くなかったことも大きい。特に21年末～22年3月までの全国的な感染者急増と新潟県初の「まん延防止等重点措置」は家の体験講座休止(1月21日～3月6日)として対応するに至り、集客に大きな痛手となった。情報館も同期間は来館が思うように振るわず、同期間開催の「きんいろモザイク展」は全国初開催として注目されたが、十分な集客には至らなかった。昨年度にも増して以上のようなマイナス要素もあったが、両館とも集団感染に至るような大きな事象も無く、結果的には運営テーマを高次元で実現できたと自負している。

所管課による総合評価(所見)

現地調査日: 令和 4年 2月 16日

令和3年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。入館者数は目標の約93%に留まったが、国および当市のガイドラインに沿って入館者数の制限をしたことや、施設の休館(9月3日～16日)、マンガの家での講座の休止(1月21日～3月6日)があったことが影響したと考えられる。その一方で、マンガの家における制作実演参加者数は昨年度の約2倍となっており、指定管理者の大きな努力が伺える。学生の長期休みに合わせて講座のチラシを作成し、配布したことは、大変効果的であったと考えられるため、引き続き効果的な広報の展開を所望する。